

村 長	副村長	課 長	係 長	課 員	担 当

報 告 書

項 目 金山地区「みらいトーク！」実施報告書

日 時 令和8年7月23日（木）18時30分～20時00分

場 所 金山生きがい学習施設

事 務 局 総務企画課長、企画係長、穴戸、佐藤（路）

出 席 者 6名

1 目的

令和9年度から始まる第6次総合振興計画の策定に向け、金山地区の現状や将来への不安、残したいもの、10年後に向けて必要な取組等について意見を聴取するため、金山地区「みらいトーク！」を実施した。

2 実施概要

はじめに、村から第6次総合振興計画の策定趣旨や計画骨子の考え方について説明した。その後、参加者及び村職員が自己紹介を行い、地区との関わりや日頃感じていることを共有した。

意見交換では、金山地区のビジョンマップを活用しながら、残したいもの、大切にしたいもの、心配なこと、今後あったらよいものなどについて話し合った。また、付箋を用いて意見を出し合い、地図上の場所や地区全体の課題・希望と結び付けながら整理した。

3 主な意見

（1）子どもを地域全体で育てる環境

金山地区の魅力として、地域住民が子どもを大切に、日頃から声を掛け、見守る関係が残っていることが挙げられた。

少人数の学校では、学年を越えて子ども同士が関わり、教員とも身近な関係を築くことができる。また、一人ひとりの個性が自然に受け入れられ、周囲と同じであることを求められ過ぎない環境も評価された。

子育てに関する不安がある場合も、同世代の保護者だけでなく、地域の先輩世代へ相談できる関係がある。婦人会等の活動も、地域行事や子育てを支える役割を担っている。

一方で、子どもが安心して遊べる公園や、水辺に安全に触れられる場所が欲しいとの声もあった。現在の地域のつながりを残しながら、子どもが遊び、育つ環境を整える必要がある。

（２）地域のつながりと行事の継続

金山地区には、桧原湖の景観に加え、小谷山城跡、鉾山跡、旧街道、水没した集落の遺構など、多様な歴史資源があることが共有された。

小谷山城跡については、地域住民が草刈りを行ったことがあり、山頂からの眺望も良いとの話があった。地区周辺には、かつて金を採掘していた坑口等も残っているが、老朽化や安全上の問題から、現在は内部を見ることが難しい場所もある。

また、旧街道を通じた米沢方面との歴史的なつながりがあり、米沢側の地区との交流も長年行われてきた。一方で、参加者の高齢化等により、継続してきた交流組織が解散したことも共有された。

（３）湖・山城・鉾山・旧街道等の歴史資源

金山地区には、桧原湖の景観に加え、小谷山城跡、鉾山跡、旧街道、水没した集落の遺構など、多様な歴史資源があることが共有された。

小谷山城跡については、地域住民が草刈りを行ったことがあり、山頂からの眺望も良いとの話があった。地区周辺には、かつて金を採掘していた坑口等も残っているが、老朽化や安全上の問題から、現在は内部を見ることが難しい場所もある。

また、旧街道を通じた米沢方面との歴史的なつながりがあり、米沢側の地区との交流も長年行われてきた。

一方で、参加者の高齢化等により、継続してきた交流組織が解散したことも共有された。

こうした歴史や地域間のつながりは、地域外だけでなく地区内でも十分知られていないものがあるため、記録や案内を整え、次の世代へ伝える必要がある。

（４）水没集落と湖を生かした回遊

桧原湖の湖底には、噴火前の集落や道などの痕跡が残されており、これまでに調査も行われてきたとの話があった。水位等の条件によっては、かつての道や木の跡などが見える場所もある。

現在の遊覧船等は金山地区まで来ないため、歴史民俗資料館付近に船が発着できる場所を整え、裏磐梯方面から金山地区へ人を呼び込めないかという提案が出された。

船上から水没集落の歴史を案内することや、歴史民俗資料館、小谷山城跡、旧街道等を結び付けることで、金山地区の歴史を実際に見て、知ることができる仕組みが考えられる。

大規模な施設整備だけでなく、現在ある湖と歴史資源をつなぎ、地域内を回ってもらう視点が重要である。

（５）山塩ラーメンを起点とした立ち寄り与交流

金山地区には、会津山塩ラーメンを目的に多くの人々が訪れており、地域外から人を呼び込む大きな拠点となっていることが確認された。

一方で、店の待ち時間や休業日などに、来訪者が休憩したり、地域の情報に触れたりする場所が少ないとの意見があった。

カフェ、軽食、地域の商品を扱う小規模な店舗等があれば、ラーメンを目的に訪れた人が地区内を回り、地域との関わりを深めることにつながるのではないかという提案が出された。

（６）自然を生かした遊びと滞在

金山地区では、湖、釣り、キャンプ、山城、豊かな景観などを生かし、子どもや来訪者が自然の中で過ごせる可能性があるとの意見が出された。

湖は深く、水温も低いいため、遊泳には危険がある。一方で、場所や方法を限定し、安全に水に触れられる環境があればよいとの声があった。

意見交換の中では、公園、ドッグラン、アスレチック、キャンプ、テントサウナ等の案も出された。これらは具体的に決定された取組ではないが、湖や自然を眺めるだけでなく、実際に体験し、滞在できる場所を増やすという方向性が示された。

(7) 地域での仕事と移住・挑戦への支援

桧原湖や金山地区に強い愛着を持ち、村への移住を希望する人がいる一方で、地区内で働ける仕事や住居が少なく、具体的な移住につなげることが難しいとの話があった。

地区外の職場へ通勤する場合、冬季の移動負担が大きい。仕事が近くなければ、若い世代が職場に近い地域へ転出し、一度地区を離れた人が戻ることも難しくなる。

カフェ、観光、自然体験等を含め、地域で新しい仕事を始めようとする人を、住居、資金、手続、地域との調整などの面から支援する必要がある。

一つの取組を成功事例として支え、それを見た次の挑戦者につなげていくような、継続的な起業・移住支援が求められている。

(8) 除雪・買い物・医療等の生活基盤

金山地区では、村道等の除雪は行われているものの、高齢になって自宅周辺の除雪ができなくなれば、外出そのものが難しくなるとの不安が共有された。

若い世代にとっても、冬季に地区外へ通勤する負担は大きい。高齢者だけでなく、働く世代も含め、雪の多い地域で暮らし続けられる支援が必要である。

買い物については、将来、運転免許を返納した高齢者や一人暮らし世帯が、食料や日用品を確保できなくなることへの不安があった。コンビニエンスストアを求める声がある一方、現実的な方法として、移動販売、宅配、冷凍食品やラーメン等を購入できる自動販売機を活用できないかという案も出された。

自動販売機については、景観、道路、建物との位置関係等の設置条件があるため、地域の要望と制度上の条件を確認しながら検討する必要がある。

一方で、夜間の受診や歯科、専門的な診療等では会津若松方面まで移動する必要がある。現在の身近な

診療体制を維持するとともに、移動手段を含めた医療へのアクセスを確保する必要がある。

(9) 野生動物への対応と暮らしの安心

地区内では、熊、猿、イノシシ、キツネ等の野生動物が身近な場所に現れている。住宅の近くに熊が出没し、子どもの通学に影響した事例も共有された。

自然が身近にあることは金山地区の魅力である一方、野生動物との距離が近くなり過ぎることで、子どもの外遊びや通学、農作物、日常生活への不安につながっている。

捕獲等を担う人の確保を含め、村全体で鳥獣被害対策を進めるとともに、出没情報の共有や通学時の安全確保を行う必要がある。

4 総合振興計画への反映に向けた視点

- ・少人数教育と世代を越えた地域の子育て環境の維持
- ・子どもが安全に遊べる公園や自然体験の場づくり
- ・祭礼、婦人会、神社管理、花の植栽等を無理なく続ける仕組みづくり
- ・小谷山城跡、鉾山跡、旧街道等の歴史資源の記録・保存・活用
- ・桧原・金山地区や米沢方面との歴史的なつながりの継承
- ・水没集落の歴史を伝える展示、案内、湖上体験等の検討
- ・裏磐梯らめんやを起点とした地区内の回遊と情報発信
- ・湖、釣り、キャンプ等を生かした安全な自然体験と滞在の仕組みづくり
- ・地域で起業、就業、移住したい人への一体的な支援
- ・高齢世帯の自宅周辺の除雪を支える仕組みづくり
- ・移動販売、宅配、自動販売機等を組み合わせた買い物支援
- ・診療所や定期的な診療等、身近な医療体制の維持
- ・観光振興と住民の生活基盤を両立させる地域づくり

5 まとめ

今回の対話では、金山地区には、桧原湖、小谷山城跡、鉾山跡、旧街道、水没集落、会津山塩ラーメンなど、多様で特徴的な資源があることが確認された。

また、地域全体で子どもを見守る関係、少人数だからこそ築かれるつながり、婦人会や高齢者を中心とした地域活動など、住民同士の結び付きも金山地区の大きな魅力である。

一方で、人口減少や高齢化に伴い、除雪、買い物、通勤、医療、野生動物への対応など、安心して暮らし続けるための課題も共有された。地域外から金山地区に関心を持つ人がいても、仕事や住居がなければ、移住や継続的な関わりにつなげることは難しい。

今後は、歴史、自然、食を個別に発信するのではなく、地域内を回り、滞在し、住民と関わる仕組みへつなげる必要がある。あわせて、観光客を呼び込む取組だけでなく、現在暮らしている住民が高齢になっても安心して暮らせる生活基盤を整えることが重要である。

金山地区の前向きな地域性と住民同士のつながりを大切にしながら、新しいことに挑戦する人を支え、住民と来訪者の双方にとって魅力のある地区づくりを進める必要がある。

以上